

NJ 素流協 News

平成20年 8月25日 第44号

平成20年 8月25日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)
 TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

国産材利用拡大推進需給協議会を設置

第一回国産材利用拡大推進需給協議会が、七月二十九日(火)に開催された。

昨年度まで補助事業で開催されてきた、県産材利用拡大推進協議会の終了を受けて、素材の供給側と需要側双方がその必要性を認め、両者の経費負担で継続設置されたものである。

開会に先立ち、協議会の会則制定や役員選出が行われた。

▽目的

素材生産や間伐で生産される素材のうち、小径材や曲がり材等のB材を主体に、合板等の原料として計画的、安定的な供給と利用拡大を促進する。

▽事業

・計画的・安定的な需給調整と円滑な流通に関する事項
 ・国産材の需要者及び供給者、関係機関等の情報交換及び連携強化に関する事項 他

委員名簿 (敬称略)

氏名	所属・役職	役員
西村 和明	岩手県林業水産部 林務担当技監	
佐々木 巖	全国素材生産業協同組合連合会 参与	
福田 忠一	ホクヨープライウッド株式会社 常務取締役	監事
小野 繁清	北日本プライウッド株式会社 代表取締役社長	
小三 上	株式会社カリヤ 取締役生産部長	
小保内 勝哉	岩手県森林組合連合会 専務理事	
久保 富男	岩手県国有林材生産協同組合連合会 専務理事	
下山 裕司	ノースジャパン素材流通協同組合 理事長	会長
石川 勝也	ノースジャパン素材流通協同組合 副理事長	副会長
安倍 和明	ノースジャパン素材流通協同組合 理事	
佐藤 太一	ノースジャパン素材流通協同組合 理事	
島山 信一	ノースジャパン素材流通協同組合 理事	
横 沢 孝一	ノースジャパン素材流通協同組合 理事	

会長に選出された下山裕司理事

長は、開会にあたって、「我が国の素材生産量の増加に伴い、その利用分野が拡大し、国産材の自給率も高くなってきている。今後この傾向は更に進むと考えられ、それに伴って生産、流通、加工のあり方はその変化に合った形に変えていかなければいけない。」

中味を拡充した形で協議会を続けて行ったらどうかという議案に対して、関係者の方々からご賛同をいただいたので、本協議会を設立、開催することとしたが、

本協議会の果たす役割は非常に大きなものと考えている。」と挨拶した。

▽協議事項

一、NJ素流協事業計画について
 基本方針は昨年までと変わらず、B材を主体として合板工場へ共同販売する。

今年度の計画量は、合板用素材十八万六千立方メートル(月平均ホクヨー一万二千、北日本三千五百)、集材用等素材一万立方メートル、計十九万六千立方メートルである。

また、素材供給の量的拡大と安定的供給体制を強化するため、事業地区と取扱樹種を拡大する。

〔質問〕素流協がエリア拡大した目的は？

〔回答〕青森からの出材が増えてきたことと、より安定的集材を確保するため、エリアを拡大した。

二、原木等需給動向の見通し

(一) 素流協の出荷実績と今後の見通し

合板用素材としての出荷量は、毎年度の計画量をオーバーした実績となっており、昨年度は計画量一四五千立方メートルに対して実績が一五三千立方メートルとなっている。

例年国有林での生産請負事業の関係で、出荷量が夏期に減少しているが、今年度は、工場側の受入調整がなされていることから、例年と異なった出荷状況となっており、減少の時期が例年より遅くなるのではないかと予測している。

(二) 合板工場の需要動向と今後の見通し

合板の需給は、一～三月底値状態で動きが悪かったが、四～六期月やや回復状況となった。

七月の予想は、工務店や販売店、住宅設備メーカーでは五〇%以上のマイナスと見ている。

合板工場では、在庫量は若干減ってきており、針葉樹合板の需要量

がある程度上昇すると見ているが、七～九月期の需給見通しが立っていないことから、八月も減産体制を続けている。

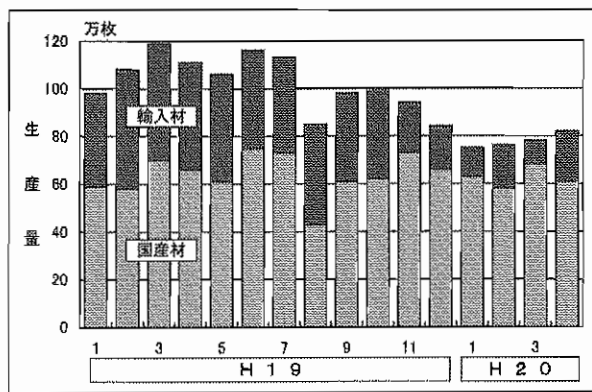


図1 ネダノン生産量の推移

床用合板(ネダノン)の生産は、昨年八月以降減産状況が続いており、ネダノンの生産量が増えてこない、国産材特にスギの需要も増えてこないという状況にある。

国産材利用の比率が上昇してきているのは、製品の品質面からだけでなく、輸入材の価格が上昇したことが主要因であり、この点を充分留意する必要がある。

現在合板の国産材比率は六三%程度であり、七〇%を目標に取組んでいる。

スギは比重が低いのでスギー〇〇%は強度の面から無理である。どうしても三〇%はカラマツ材が必要で、それを国産カラマツで確保できないときは外材使用ということになる。

住宅着工数が急激に伸びることは考えられないので、国産材需要を高めるには、消費者に国産材の製品に慣れて貰い、国産材の利用比率を高めることである。

〔質問〕工場では原材料の素材をどの程度準備するものか。

〔回答〕外材は一・五ヶ月、国産材は二・〇ヶ月強で進めてきたが、現在はロシアの関税問題等で四・〇ヶ月程度になっているのではないかと。北洋材を米材へシフトしている工場もある。

〔質問〕合板工場における受入調整の今後の見通しは。

〔回答〕ホクヨーでの昨年の引受量は十五万三千立方メートルであつ

た。今年は半年で十二万九千立方メートルに達している。

カラマツを三〇%欲しいのに、二〇%にとどまっている。工場側としては、カラマツの比率が三〇%で、月一万二千立方メートルの量をコンスタントに入れてくれることを希望している。

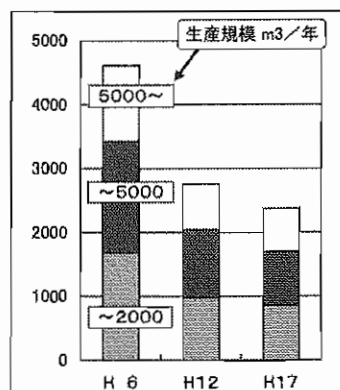


図2 素材生産事業体数の推移

三、その他

「全国的に見た素材生産事業体の動向」として全国素材生産業協同組合連合会参与 佐々木氏より、素材生産事業体の動向、素材の生産性、高性能林業機械の保有状況が説明された。

また、岩手県より木材流通関連事業等の紹介がなされたほか、伐採地の植栽についても議論がなされた。

ウッドマイルズ講座 (9)

住宅の構造別二酸化炭素排出量

住宅は、木材やコンクリート等を使用して建築されるが、その材料を製造する際にはエネルギーを消費して、CO2を排出する。

▽製材品等の製造時CO2排出量
製材品1m³あたり、立木の伐採から搬出、製材までに五四kgのCO2を排出し、それを人工乾燥すると三六三kg、更に防腐処理すると一三一kgのCO2を排出し、結果として、人工乾燥材は、天然乾燥材の六・六倍、人工乾燥防腐処理材は九・〇倍のCO2を排出している。

また、コンクリートは八倍と、人工乾燥防腐処理材と同程度であるが、鋼材は三六〇倍、アルミ(リサイクル材)は七八五倍と非常に大きな排出量となっている。
このように木材は、他の材料に比べて製造時のCO2排出量が低く、同様にエネルギー消費量も低

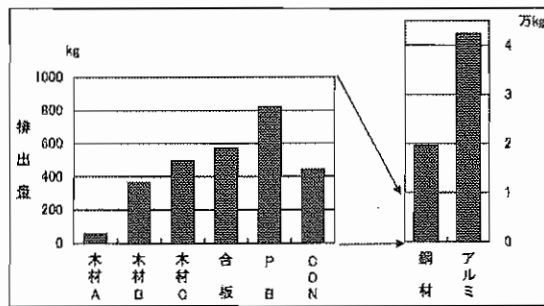


図1 製造時のCO2排出量
木材A:天然乾燥材 木材B:人工乾燥材 木材C:人工乾燥防腐処理材 PB:パーティクルボード CON:コンクリート アルミ:リサイクルアルミニウム

いことから、エコマテリアル(環境への負荷の少ない材料)として、高い評価を受けることとなっている。

▽構造別住宅のCO2排出量
床面積一二五・八六m²の住宅を標準住宅として、主要材料等の使用量及びそれらの製造時CO2排出量を構造別にみると、鉄筋コンクリート造(RC造)ではコンクリート、鉄骨造(S造)では鋼材

が多いのは当然であるが、全構造ともコンクリートが多くなっている。

木造においては、コンクリートが木材と同程度となっていることから、この量を如何に減らすことができるかが今後の課題である。

構造別住宅のCO2排出量は、RC造では木造の約三・五倍、S造では約二・五倍となっており、木造がエネルギー消費やCO2排出量が最も少なくなっており、床面積が同じであれば、木造率を増大させることで、CO2の総排出

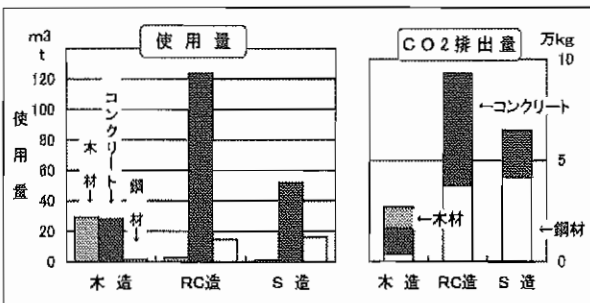


図2 標準住宅の主要材料の使用量とその製造時CO2排出量
標準住宅:床面積125.86m²
使用量の単位:木材、コンクリート(m³) 鋼材(t)

量を減らすことができる。これらの排出量は、資材の製造時にかかるもので、資材の運搬や建設施工時の排出量は含まれていないので、実際には三割程度増大すると考えられる。

トピック

この夏、岩手県内特に市街地でマイマイガは異常発生し話題となった。地元新聞紙への樹木医高村尚武氏の投稿内容を紹介する。

異常発生は今大戦前にもあったが、記録されているのは、昭30〜38年に旧衣川村を中心に約五百ha、昭39〜41年の旧玉山村から旧浄法寺町にかけての発生では枯れる木もでた。

その後、昭46〜50年に県南部から県北部にかけて発生し、50年には約8百haを記録した。

この蛾の発生特徴は、2〜3年で発生が終息することであり、天敵微生物(カビ類)によって終息した事例が多く報告されている。

お知らせ

創立記念式典のご案内

創立五周年記念式典を左記のと
おり開催します。

多数ご臨席下さるようお願い致
します。

〔日時〕平成二〇年十月十日（金）
十五時〇〇分から

〔場所〕ホテルメトロポリタン盛
岡ニューウイング

〔内容〕記念式典（十五時～）
記念講演会（十六時～）
記念祝賀会（十七時～）

記念講演会

〔講師〕北海道森林管理局長

山田壽夫氏

〔演題〕「本格的な国産材時代を迎
えるに当っての林業人の心構え
について」

一葉

樹

皮

3

皮付直径に対する樹皮厚の割合（樹皮厚率）は、樹種、生育地域、樹幹の大きさなどの要因により異なる。

▽高さによる樹皮厚

幹の樹皮の厚さは根元が最も厚く、上になるに従って薄くなり、梢頭部が最も薄くなっている。そこで、高さ別に樹皮厚率をみると、図のようになる。

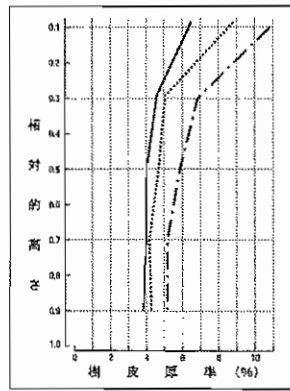


図1 高さ別樹皮厚率

樹高を一〇等分した、根元から中央部にかけての樹皮厚率はほぼ一定で変化が少なく、その上一分の七ぐらいまではやや増大し、更にその上から梢頭に近づくと急激に増大する。

しかし、現実に利用する幹の部分は、高さが一〇分の七ぐらいま

であるから、樹皮厚率はほぼ一定の値と見なしてよくなる。

▽胸高部における直径と樹皮厚率

一般に胸高直径の増大につれて樹皮厚率は双曲線的な減少傾向を示し、ある太さ以上になると変化しなくなることがわかっている。

日本の主要樹種について、過去の調査結果をもとに、直径と樹皮厚率の関係が取りまとめられている。

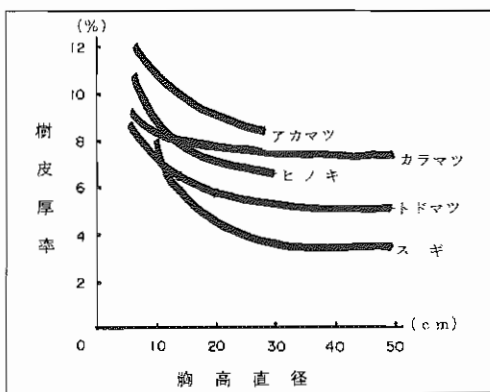


図2 胸高部の太さと樹皮厚率

各樹種とも直径が一〇センチ以下になると樹皮厚率が急激に大きくなっていくが、このような細い

材は、用材として利用されるものが少ないので実用上は問題とならないだろう。

なお、樹種ごとの平均的樹皮厚率は、表のようになる。

樹種別平均的樹皮厚率

樹種	樹皮厚率
スギ	3.5~4.0
アカマツ	10.0前後
カラマツ	7.0~8.0
ヒノキ	4.0~5.5
トドマツ	5.0~6.0
ミズナラ	10.5前後
ブナ	3.0前後

冗談欄

理想的死に方

「理想の死に方」というアンケート調査がなされた。

「家族に看取られて死にたい」、「畳の上で死にたい」、「なるべくボケずに死にたい」が上位である。

日本人の死因は、1位がガン、2位が心臓病、3位が脳卒中で、以下交通事故、自殺と続き、この5つで七〇%を占める。

畳の上で大往生といういわゆる老衰死は難しいことである。

死因が1番人気の心筋梗塞は突然死の代表で、必ずしも畳の上で、家族に看取られながら死ねないし、家族には看病できない

かったという悔いが残る。

2番手の脳卒中は、発見が早く救急車で病院に行くと、中途半端に助かり、後遺症が残る家族に迷惑をかけることとなる。

脳卒中で死ぬには、ご飯に塩をたくさんかけ、漬物に醤油をたっぷりかけて食べる努力をし、救急車を呼ばずに2、3時間我慢すればよい。

ガンだけはなりたくないと思う人が思っているが、ガンもそう悪くはない。

ガンではコロッとは逝かず、一定期間後に逝くので家族に看病したという満足感を与える。

平成20年7月分の販売実績

- 1 会員生産の合板用出荷量を昨年7月と比較すると、カラマツが1,000m³増大しているが、スギ、アカマツが減少し、全体で約740m³減少している。また、先月と比較すると大幅に減少し、スギが4,900m³、カラマツが580m³、アカマツが1,240m³、全体で6,720m³減少している。工場別ではホクヨープライウッドが昨年7月比較で1,265m³、先月比較で5,730m³減少している。北日本プライウッドは昨年7月比較で530m³増大したが、先月比較では990m³減少している。これらの主原因は工場側の受入調整と考えられる。
- 2 その他（合板用以外）の出荷量は先月と同程度となっているが、昨年7月と比較すると、スギが大幅に増大し、全体で460m³多くなっている。
- 3 年間計画量に対する7月までの目標出荷量の割合（目標達成率）を33.3%とすると、今月までの合板用出荷は計画を若干上回った進捗状況となっている。

区分	出荷者	樹種	長級	販売先				累計	割合		目標達成率	19年度計画量	
				ホクヨープライウッド(株)	北日本プライウッド(株)	その他	計		長級別	樹種別			
合板用	会員生産	スギ	2.0	3,605	1,969		5,574	25,506	65.7	60.9	38.4	166,000	
			2.1				108	0.3					
			4.0	1,074	1,173		2,247	13,232	34.1				
			計	4,679	3,142		7,821	38,847	100.0				
		カラマツ	2.0	1,715	1,065		2,780	9,928	67.3				
			2.1	22			22	220	1.5				
			4.0	752	819		1,571	4,595	31.2				
			計	2,489	1,884		4,373	14,743	100.0				
		アカマツ	2.0	1,345	97		1,442	9,225	90.3				23.1
			4.0	30	112		142	996	9.7				
			計	1,375	209		1,584	10,221	100.0				
			計										
	その他針												
		計											
		計	8,543	5,235		13,778	63,811	100.0					
販売用	システ売ム	スギ	2.0	223	84		307	(24)	(449)				
			4.0					5					
			計					150			82.1		
		カラマツ	2.0										
			4.0										
		アカマツ	2.0										
			4.0										
計		223	84		307	1,507			8.0				
計		8,766	5,319		14,085	65,318			100.0	7.5	20,000		
その他	会員生産	スギ	2.0				750	750	1,945	66.5			
			4.0				189	189	729	24.9			
			計					939	2,674	81.4			
			アカマツ	2.0				53	53	232	7.9		
			4.0							8	0.3		
			計					992	992	2,927	100.0	29.3	10,000
			計					992	992	2,927	100.0	29.3	10,000
			合		8,766	5,319	992	15,078	68,245			34.8	196,000

() はストックヤードからの出荷量 (内数)

林業関係労働災害防止規程解説

【上下作業の禁止】

作業中 材が転落し、又は滑ることによって危険が予想される斜面の下に作業者を立ち入らせてはならない。

急斜面や積雪、凍結した林地では、伐倒木や玉切り材が滑り落ちたり、浮石等が転落することがあるので、このような場所で作業を行う場合には、作業者が他の作業者と同一斜面で上下の位置にならないようにします。

【悪天候時の作業の禁止】

強風、大雨、大雪等の悪天候のため危険が予想される場合には、作業者に、伐木又は造材の作業を行わせてはならない。

・雷が発生したり、落雷が予想されるときは、直ちに作業を中止し、チェンソーなどの作業用具を身体から離し、自動車、作業小屋、凹地等の安全な場所へ速やかに避難するようにします。
・山頂や大径木の下、鉄塔の下は落雷の危険があるので、近寄らないようにします。

《強風》一〇分間の平均風速が毎秒一

〇m以上の風(風速一〇m)樹木が激しく揺れ、電線がビュービューと鳴る。傘が壊される。池や沼の水面に波頭が立つ。

《大雨》一回の降雨量が五〇mm以上の降雨

《大雪》一回の降雪量が二五cm以上の降雪

【近接作業の禁止】

立木を伐倒する場合には、立木の樹高の一・五倍の距離の範囲内に他の作業者を立ち入らせてはならない。

・同時に伐倒作業を行う場合には、樹高の二・五倍の距離の範囲内に他の作業者を立ち入らせないようにします。

